

# 第1学年「生き方」指導案

## 1 単元名 障がいのある人と自分

## 2 単元の目標

- 【分かる】障がいの種類や障がいのある人を取り巻く様々なバリア、障がいのある人たちが抱える生きにくさ分かる。
- 【深める】仲間との語りや福祉体験を通して、障がいのある人に対して偏った見方をしている自分に気付き、人との接し方を見つめ直すことができる。
- 【育む】まとめの活動を通して、障がいのある人もない人も共によりよく生きていくため、互いに尊重し合い、心のバリアを克服しようとする心を育むことができる。

## 3 単元指導計画

時	過程	ねらい	学習活動	・指導のポイント ○準備物
1	分かる (評価の観点・知識・技能)	障がいのある人とない人の違いについて考えることを通して、障がいの有無で違った見方をしている自分に気付き、障がいのある人について学ぶことの意義が分かる。	①成田選手が金メダルを取った時の映像を視聴して、思ったことを記入する。【個人】 ②成田選手のパラリンピックに臨む映像を視聴して、障がいがあることを知った上での感想の違いを交流する。【全体】 課題：障がい「ある人」と「ない人」の見方について考えよう ③障がい「ある人」と「ない人」の見方について、どう違うのかを記入し、交流する。【個人】【グループ】 ④ホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ⑤事前アンケートに回答する。【個人】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	○映像資料「成田選手の平昌金メダル」(1分50秒) ○映像資料「成田選手パラリンピックへ臨むまで」(2分) ・②,③では、「障がい者なのに」という意見が生徒から多く出されるため、知らず知らずのうちに偏見や差別をもってしまっていることに気付かせる。 ・事前アンケートとワークシートを回収後、障がいのある人に対する生徒の意識や本時の感想を机列表や名簿にまとめ、生徒の心の変容を捉える材料とする。 ○ワークシート, ホワイトボード, 事前アンケート
2		障がいには様々な種類があり、障がいによって生活をする上での不便さがあることが分かる。そして、障がい者に対する配慮が必要であることが分かる。	①障がいの種類や世界の流れをワークシートに記入しながら、本時の課題を確認する。【全体】 課題：障がいのある人は、どんな生きにくさを感じているのだろう ②障がいのある人の生きにくさにどんなものがあるのかをワークシートに記入し、交流する。【グループ】 ③事例一つ一つについて、障がいのある人の生きにくさを考え、ワークシートに記入し、交流する。【全体】 ④本時の感想を書く。【個人】	○映像資料「障がいのある人と人権～誰もが住みよい社会をつくるために～」(2分53秒) ・①では、見た目では分かりにくい障がいがあることに気付かせる。 ・③では、肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がいの人の生きにくさについて考えさせ、合理的配慮の重要性に気付かせる。 ○ワークシート, ホワイトボード
3		障がいのある人の思いを考えることを通して、自分の思いと障がいのある人の思いとの間にズレがあることに気付き、相手の思いが分かって行動することが大切であることが分かる。	①障がいのある人の生きにくさを思い返す。【全体】 課題：障がいのある人は、どんな思いで生活しているのかを考えよう ②障がいのある人はどのようなことを周りに分かっているかを感じる。【個人】 ③意見をホワイトボードにまとめ、交流する。【全体】 ④実際に障がいのある人はどのようなことを周りの人に分かっているかを知り、考える。【全体】 ⑤本時の感想を書く。【個人】 ⑥映像資料「風の匂い」を視聴する。【全体】	・④では、障がい者の意識調査の結果をもとに、自分たちの考えとのズレに気付かせる。その中で、決めつけた見方をしていることや、障がい者に接する際の意識の持ち方について考えさせる。 ○資料「障がい者の人権問題 世論調査結果」(内閣府『人権擁護に関する世論調査 2023年』) ○ワークシート, ホワイトボード ○映像資料「風の匂い」(9分30秒)
4	深める (評価の観点・思考・判断・表現)	本時		
5		障がいのある人が何に困っているのかを考えることを通して、障がいのある人が安心して生活できる社会にしていけることを考えることができる。	①前時を振り返り、課題設定をする。【全体】 課題：障がいのある人が安心して共に生きる社会をつくるために、私たちに何ができるのかを考えよう ②歩が安心して働くことができるようにするために、周りの人たちに何ができただかを考える。【グループ】【全体】 ③映像資料「風の匂い」(9分30秒から)を視聴する。【全体】 ④正人や周りの人が歩にした配慮について気付いたことを交流する。【全体】 ⑤障がいのある人に接する際に、どのような配慮をしていこうと考えたのかをまとめる。【個人】	・①では、頭では分かっている態度に出してしまうことで、相手を不安にさせてしまうことを確認する。 ・②では、障がいのある人が安心して働いたり生活したりすることができるようになるために何が必要かを考える中で、自分の問題として捉えさせる。 ・④では、映像資料から、障がいのある人と共に生きていく上で大切なことは、その特性を理解し、必要な支援や配慮を考えながら行動に移すことだと気付かせる。 ○映像資料「風の匂い」(9分30秒～30分55秒), ワークシート, ホワイトボード
6・7・8	福祉体験 ・講話をもとに、障がいのある人への関わり方やできうる支援について考える。 ・白杖体験、車いす体験を通して、障がいによる生きにくさや支援について考える。			
9・10	育む (評価の観点・主体的に学習に取り組む態度)	障がいのある人もない人も、共によりよく生きていくため、互いに尊重し合い、心のバリアを克服しようとする心を育むことができる。自分の思いを強くもち、相手を意識して、分かりやすく発表することができる。	課題：福祉体験のお礼の手紙を書こう ①手紙を書く。【個人】	・感謝だけでなく、人との関わりを通して学んだことを多く書くことができるようにする。 ○手紙
11・12・13		課題：これまでの学習や福祉体験を振り返り、自分の思いや考えを書こう ①プレゼン資料をつくる。【個人】 ②発表会に向けた練習をする。【個人】	・学んだ事実だけでなく、深い学びに至ったきっかけや自分の心の変容などをもとに作成できるようにする。 ○タブレット端末	
14		課題：自分の思いや考えを伝えよう ①発表会を行う。【グループ】 ②抽出生徒の発表を聞く。【全体】 ③学習のまとめをする。【全体】	・①の発表後に、感想の交流を位置付ける。 ・③では、心の変容があった生徒を事前に抽出しておき、その思いを全体で共有できるようにする。 ○感想用紙	

#### 4 本時のねらい

歩に関わる正人の気持ちを考える活動を通して、障がいのある人に対する偏見や差別心が自分の中にあることに気付くことができる。

#### 5 本時の展開（4 / 14）

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	留意点 ・指導のポイント ★葛藤を生み出す指導 ●語らいを生み出す指導
導入	<p>①前時の振り返りをする。 【全体】</p> <p>②登場人物や問題の背景を確認する。 【全体】</p> <p>□森野 歩 (知的障がい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>しゃべり方が特徴的 ・こだわりが強い</li> <li>自分の担当の仕事に一生懸命に取り組める</li> <li>言われたことをそのまま受け止めて行動する</li> <li>急な変更に対する対応が苦手</li> </ul> <p>□渡辺 正人 (売場主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩の仕事担当の主任 ・歩とは幼なじみ</li> </ul> <p>③正人の複雑な表情について、動画(3分～9分40秒)を見直す。正人が歩と会話している表情とその他の登場人物と会話している表情を、ペープサートを使用して見比べ、正人の気持ちを考える。 【全体】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①では、前時を振り返り、障がいのある人の気持ちについて確認する。</li> <li>②では、歩に知的障がいがあることから、その特性や生きにくさについて押さえる。</li> <li>正人が歩と幼馴染みであったことを補足説明する。</li> <li>③の動画を視聴する際に、焦点を当てる場面について補足説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇正人が歩を紹介された時に驚く表情</li> <li>◇歩の行動を見た後、帰宅する前の表情</li> </ul> </li> <li>ペープサートで表情を比較することで、歩を変な目で見ってしまう正人に気付かせる。</li> </ul>
<p><b>課題 正人は歩に対してどんな思いをもっていたのだろう</b></p>		
展開	<p>④正人の歩に対する気持ちについて考える。 【全体】</p> <p>「正人は歩を紹介された時、なぜ驚いた顔をしたのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩と再会することになって驚いた。(驚き)</li> <li>歩はきっと覚えていないだろう。(安心)</li> <li>面倒なことになりそうだ。(不安)</li> <li>知り合いだとは思われたくない。(嫌悪感)</li> <li>できるだけ関わりたいくない。(偏見)</li> </ul> <p>⑤正人の歩に対する態度についての感想を交流する。 【グループ】⇒【全体】</p> <p>「こんな正人についてどう思うか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知らない顔や面倒くさそうにするのはよくない。</li> <li>幼馴染みならもっと助けてあげないと。</li> <li>歩のことを避けてはいけない。</li> <li>歩は周囲の空気を読めないから、正人が変な顔をする気持ちもわかるような気がする。</li> </ul> <p>⑥正人と自分の心を比べながら交流する。 【個人】⇒【全体】</p> <p>「自分が正人の立場ならどうだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>だめだとわかっていても顔に出してしまうかもしれない。</li> <li>正人のことをひどいと思っていたのに、もし自分がそういう立場だったら、自分も正人と同じようにひどい態度をとってしまうかもしれない。</li> <li>自分の中にも差別する気持ちがあるかもしれない。</li> </ul> <p>⑦理想に近づかない原因を明らかにする。 【全体】</p> <p>「頭では分かっているのに、表情に出たり、目配せをしてしまったりするのはなぜだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>頭では分かっているけど、実際に対面したときに、その人のことを「何しているの。」とか「なんでできないの。」などの差別する気持ちがある。</li> <li>障がいがあることで、他の人と違うことが悪いことのように考えてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④では、正人の複雑そうな表情の裏側にある歩に対する気持ちを考えることを通して、障がいのある歩に対する偏見や差別心に気付かせる。</li> <li>(補助発問)「正人は歩と幼馴染みであることを歩や周囲の人になぜ伝えようとしなかったのだろうか。」</li> <li>⑤では、正人の内面にある、歩に対する不快な気持ちを明確にすることで、理想の姿を想起させる。また、「理想」の掲示物を位置付けることにより、⑥で考える「現実」とのズレを明確にする。</li> <li>◆⑥では、掲示物を活用しながら、「自分だったらどうするのか。」という体験を引き出す発問をし、より現実的かつ自分事として考えられるようにする。</li> <li>「現実」の掲示物を位置付け、本時における現実の姿を確認する。</li> <li>(補助発問)「障がいのある方に対して、変な表情をすることはないか。」</li> <li>(補助発問)「変だと思う行動を見て、誰かと目配せしないだろうか。」</li> <li>★葛藤を生み出す指導 自分も正人と同じ態度をとってしまうかもしれないという現実に関心させ、正人に感じた不快な気持ちがある自分の中にもあることに気付かせることで、葛藤を生み出す。</li> <li>●語らいを生み出す指導 自分の中にある弱さを文にまとめさせることで、思いを整理させる。それをもとに意図的指名を行うことで、自分の考えと比較しながら仲間の意見を聞かせ、周囲の仲間と話させることで語らいを生み出す。</li> <li>⑦では、「表情に出すことで、相手をどんな気持ちにさせるのだろうか。」と問う。差別が生まれる原因となる考え方について整理することで、差別解消に向けた行動化につなげていく。</li> </ul>
終末	<p>⑧本時の感想を書く。 【個人】</p> <p>歩に対して冷たい行動をとってしまう正人はひどいと思っていたけれど、自分の中にも正人と同じ気持ちがあるかもしれないと思った。相手のことを考えて行動できる自分になることで、表情に出してしまうことや目配せをしてしまうといった、差別する気持ちをなくしていきたい。</p> <p>⑨本時のまとめをする。 【全体】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧では、今日の授業で気付いたことや考えが変わったことを本時の感想に書かせる。</li> </ul> <p><b>評価規準【思考・判断・表現】</b></p> <p>障がいのある人に対する偏見や差別心が自分の中にあることに気づき、自分の人に対する見方を変えていきたいという思いをもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑨では、自分を見つめ、変わりたいと思う気持ちが表れている生徒の振り返りを紹介する。</li> </ul>